令和４年度第１回　八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会

日　　時　　令和4年６月30日(木)午後1時30分～3時00分
場　　所　　八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 研修室
出席委員　　岡村道雄委員　高田和徳委員　山下治子委員　吉田晃委員
　　石川宏之委員(オンライン)
事 務 局　　工藤館長　松橋副館長　渡参事　小久保副参事

次第
1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 教育長挨拶
4. 会長・副会長選出
　　会長：岡村委員、副館長：高田委員に決定。
5. 会議

(1)令和３年度事業報告について
山下委員：世界遺産になったのでいろいろ動きがあったし、テレビに出られていましたよね。なので、反響が色々大きいのかなと思って。
事 務 局：NHKワールドという国際放送の方でピーターバラカンさんのディスカバリージャパンという番組で縄文特集ということでした。
岡村会長：この頃は縄文特集が、世界遺産絡みもあってすごいですね。それから世界遺産の遺跡がYouTubeになったり、二ツ森貝塚を紹介したり。私も「JOMONおかむらTV」をやっています。私の小学生からの、なぜ考古学の道を歩んでその後どうなったとか。２番目はどうだったかな。第３話目は漆の話をしているので、これは見ておいていただきたいなと思っています。
　そういうYouTubeだとかも流行って、どうなるのですかね、本当に。情報が氾濫していて、正しい有効な情報みたいなのがなかなか選択できないというか。史跡をバーチャルで見るとか、情報発信の今後の正しい在り方なんていうのは。
高田委員：色々コロナの関係で中止になったとか、影響がすごくあったような感じですけれども、発掘のほうはどうなのですか。発掘は予定通りとにかく全部進んでいたのですか。コロナの緊急事態宣言が青森県に出されたら、そこである程度ストップするとか、あるいは何か方法を考えてやるとか、特にそういうのは無いですか。
事 務 局：予定通りの発掘調査はできました。発掘現場でのコロナ対策をしまして、近寄って喋らないとかというような対策をした上で、発掘調査は予定通りできました。

高田委員:やはりその現場に入るときにも熱を測ってやっていましたか。

事 務 局:自宅で体温を測って高いときはという対応で続けました。

高田委員:それで、特にそこからどなたか感染者が出たとかというような話は出ていない。そんなことも無いですか。同じ人が出勤してくるから、特にあれなのですかね。

事 務 局:感染者はございませんでした。ただご家族でとか、同居の方が濃厚接触者となっている方は時々ありましたけれども、そういう際は基準に従って休んでもらいました。現場閉鎖ということは無かったです。

岡村会長:私も全国的には心配したのだけれど、コロナがそれで現場が維持できなかったという話は一切無かったみたいですね。

吉田委員:来館者数が 3 年度の来館者数が 2 年度に比べて 150%というお話で、休館の時期もあったのを考えるとやはりすごいなというか、どのように分析されているのかというのを教えていただきたい。要はやはり世界遺産登録なのか、コロナの影響もそんなに感じなかったということ、コロナ以前よりは少し少ないようなのですが、それを受けて更に今年とか中々見通しにくいですけどコロナ禍であれば、どのような感じの見通しというか考えてらっしゃるのかなというところをちょっと教えていただければと思います。

事 務 局:令和元年度というのがコロナの直前、ゴールデンウィークは凄く来館者が来たのです。令和元年度に比べると今年のゴールデンウィークは 66%ぐらいですけれども、去年に比べるとだいぶ増えておりまして、やはり一昨年 15,000 人ぐらいだったのが今 23,000 人を超えるぐらいで、その前は 32,000 人という大きな数字が出ておりましたけれども、世界遺産登録になった 7 月だけで比べますと、開館年が一番来ております。ただそれに次ぐ来館者数がありましたのは、やはり世界遺産効果があったと思います。

ツアーにしましても、10 月と 11 月だけで比べてみたところ、10 月が大体 4 倍、それから 11 月でも 3 倍ぐらいのツアーの実施がありましたので、やはりそういうことで全国的にも注目を集めているのかなという実感はあります。まだ予約の状況なのですけども、1 月までの予約が大手旅行会社から入っておりまして、累計しますと人数だけで 2,418 人で 118 件の申し込みがあります。世界遺産というタイトルを付けた旅行ツアーというのがどんどん入ってきておりますので、やはりネームバリューと言いますか、そういう効果がかなり感じています。

石川委員:来館者推移がコロナ前の水準に近づいていて、世界遺産効果と連動しているのかと思います。教育旅行に対して、修学旅行などの受け入れ体制ができていますか。令和3年度が教育旅行先として 10 校あったということですが、今後重点的にどのように考えていますか。

事 務 局:令和元年度までは 0 件でしたが、令和 2 年度になりまして、県内で回るような修学旅行の体制になりまして、津軽の学校が八戸に来たり、むつ市の学校が八戸に来たりという現象が起こってきました。教育旅行がそこで一気に 12 校受け入れがありまして、約 600 人の生徒さん達を受け入れすることができました。今後もこの教

育旅行という需要が増えていくのではないかという感触はあります。

石川委員：今後増えていくなということを予測しながら、どういうふうに既存の教育プログラムを活かして、新たな教育プログラムを開発していくのかのとか、場合によってはこのホームページをもっと全面的にリニューアルして、もちろん常設展示も検討の対象になるかもしれませんけども、予算をつけて、編集工事を含めたこういう PR は今後の会議で議題に上がって来るのですか。

事 務 局：教育旅行につきましては縄文館だけではなくて、東北観光推進機構からもお声がけをいただきまして、新たな教育旅行プログラムということを一緒に考えていきましょうということで、去年からこの事業が進められているところでした。ちょっと今年はそこまで進んではいないのですけれども、教育旅行ということに重点をおいたような、プログラムの検討は進めているところでございます。

高田委員：関連して、コロナになって、ほとんどマイナスなことばっかりだったのですけど、今説明した教育旅行みたいなやつはプラスになったのです。なぜかというと、各都道府県を越えて行けなくなっちゃったのです。今までは岩手県内の修学旅行というのは大体仙台に行ったりだとか、あるいは北海道に行ったりとか、そういうのがほとんどだったけれども、どこにも行けないから、御所野縄文博物館にほとんど来たのです。今まで岩手県の県南部から修学旅行で来たことはないのです、県北に。

　そういう面では、こういうコロナ時期によって、今までなかったような現象がやはり起きてきている。それで一度来ていただくと遺跡の内容を見たとか、あるいは縄文のことに接することによって、こういうところも実は県内にはあるのだと理解していただくのに、本当にそういう面ではプラスになったと思います。多分ここもそうだと思うのです。そのような形で存在感が増したというように思います。

山下委員：関連して、ホームページでも教育旅行というふうに入力すると色んなものが出てきて、特に例えば福島のほうの原発があったところの富岡町も教育旅行にすごく力を入れていて、学校で来たらこういうグループ学習ができますよとか、ワークショップができますよとか、色んなメニューを作っている。是川縄文館でも、縄文のことは歴史系なのだけど、俳句とかあるので歴史の社会科だけじゃないですよというので、国語の授業も一緒にできますよとか、そういうようなメニューというものもこれまでいろいろ実績があるから、タイプを広げるのもいいのかなと思います。

事 務 局：地元の是川地区の、えんぶりの鑑賞会をやっています。

山下委員:そうですね。美術の授業と組むとかもすぐできると思うので、文様をいろいろ観察して、自分なりにデザインを考えるとか、そういうのもいろいろ幅が広げられるので、そうすると学校としてはちょっと嬉しいのかなと思います。

岡村会長：高田さんのところもそういう予約をしておられるのではないですか。

高田委員：そうです。特に教育旅行というか学校関係は早く決めちゃうのですよ。早く予約を取ってくれるので、そういう面では受ける側も助かりますので。それに合わせて。

岡村会長：それ、山下さんが今おっしゃったみたいに、歴史教育の場所だけじゃなくて、地域の色々なものを組み込んで、という話でしょう。

高田委員：自然体験のときに自然のことを勉強するとか、そういう面では幅広くやれますので、そういう意味ではいいのではないかなと思います。

岡村会長：里山学習みたいな。地元の中学生がそこでそういう研究みたいなことをしたとか、多様な利用の仕方をできるのですよね。どうしても教育委員会の歴史教育みたいなのを預かっているような（者は、）自分達の先の生活を考えちゃうところがあるので、もっとその地域の祖先達の様々な方面でのことを活かしてもらって、地域の歴史を、歴史というのかな。はい、そういう展開は必要だと思います。

石川委員：今ちょっと教育旅行の話をもう少し。今、この会議は是川縄文館運営会議の会議ですけれども、八戸市内でそういう普及性を持たせて、例えば一泊二日の学校教育プログラムを仮に開発するというのは、高校の場合、どういう形でプロセス推進していけばいいのかなとか、自分の中では思っていたのですけど。

例えば種差海岸の国立公園の自然というキーワードとか、あとは東日本大震災の記憶ということでは、八戸みなと体験交流施設「みなっ知」とか、そういうところはいくつかの教育プログラムが始まっていると思ったのですけど。是川縄文館はどこまで踏み込んでいくか。それとして進んでいく企画になると良いなと思っています。

旅行会社に対しての提案や、何か交流のはあるのでしょうか。

事 務 局：VISIT はちのへで、縄文館とそれからユートリーと博物館、三館連携で、お互い行ったらジュースや入館プレゼントします。美術館ができまして、四館連携という形で話が来て進めているところです。今後そういった連携での効果が出てくれば私たちもそれに乗っかっていきたいし、そういう部分を研究していかなきゃないなと思っております。

岡村会長：そういう別の館同士での情報交換とか、あるいはそういうふうなのはあるのですか。

事 務 局：VISIT はちのへを仲介にして、お話が来て、私たちも協力してという感じです。

高田委員：館同士の担当者が集まって、そこで実は今年は私たちの館はこういうことやります、じゃあその時に一緒にやりましょうとか、こっちの館ではこういうことやります、それでやりましょうとか、そういうふうな打ち合わせの組織はないですか、なるほど。

事 務 局：博物館からは情報を色々いただいております。

吉田委員：教育的な観点というよりは観光みたいなものにちょっと重点をおいた話になるかも知れないのですが、だんだんコロナが収まってくれば、またインバウンドのお話というのが出てくるのではないかという話があって、実際に今年になって政府も上限をつけながらですが、外国のお客様を入れるという形が進んでおります。

縄文とかって結構、国内の学生さん達ももちろんですけど、外国の方にも結構インパクトあるのではないかなと思うのですが。そうしたこれからどうなるか分かりませんが、With コロナの普通に時代になっていくとしたら、インバウンドというのも色んな意味で意識しないといけないところになると思うのですが、なにかそういうことで考えたら、是川で単独で考えてらしたり、あとは八戸市だったり、あとは世界遺産ですので、三内丸山を含めた広い、今回の世界遺産登録地域でなんかそんな話というのはどうなのでしょうか。

事 務 局：是川縄文館としましては、令和 2 年に日本語と英語の音声解説を導入しました。展示のガイド 85 か所について、ポケット学芸員という無料のアプリケーションで、誰でもご自宅でも是川縄文館の解説を見たり聞いたりすることができるものです。日本語の音声は、地元の東高校の放送部の生徒さんにお願いしまして、英語のほうは元 ALT の教員の方に英語のチェックも含めてお願いしました。

また、青森県全体としましては通訳案内士の会がありまして、通訳案内士さんの研修先として受け入れをして、是川縄文館の英語ガイドは数に限りがありますので、そういうところにも研修していただいて、助け合いながらガイドできるようにやっていきたいということで準備をしています。

また、それでもなお不測の場合がたくさん想定されますので、簡易的な翻訳機ポケトークというものを館のほうでも受付やガイド用に購入して、備えを進めているというような状況です。

岡村会長：先程副館長のほうから今後の予約状況みたいなお話がありましたけれど、インバウンドのほうは何かありますか？

事 務 局：インバウンドは、まだ無いです。

岡村会長：まだね、これからだね。これから許可が出て具体的な予約はするのかもしれない。そんなことも含めて、同じ世界遺産の御所野はどうですか。

高田委員：特にいつどういう方を含め、まだ全くそれは。この間ようやく解除になったばかりですので。

岡村会長：その前に、インバウンド対応みたいなことを、何か色々と。

高田委員：コロナが始まる前から、英語のガイド講座をやっていたのだけれども、やった途端にコロナになっちゃって、使えないというかそういう形になって。たまたまうちのほうで、ボランティアガイドに入っていた人が英語塾をやっている人で、実は前にも何人か外国の方がお見えになったときにはその方にお願いして、英語で案内してもらったとか、そういうようなことをしていたのですけれども。それで何回か研修会をやったのです。全くその遺跡にまで関わっていない人で英語に興味があるという人が、町内にいる人たちが意外と集まって来てくれて、それで一応勉強も始めたのですけれども。それがコロナのこともあって、それでちょっとそのままストップという状態にはなっていますけれども。

もう一つ、英語と一緒に中国語のやつも一応考えていたのですけれども。中国語の場合は、実はうちの街には中国人の方が結構いらっしゃるのです。中国から来られて結婚して、もう住み着いている人たち。そういう人たちがそういう会も作っていて、そういう人たちもいるので、そういう人たちは勿論日本語がペラペラですから、日本に住んでいるわけですから。その人たちに中国のお客さんが来たときの対応とか何かをお願いしようというというような形で、それも一応ネットワークというかその人たちの名簿を作ったとか、そういうことまでやっています。ただ、実際まだ何もやらないうちにストップしちゃったものですから。そういうような状態になっています。だから、これから少しずつ動き出したら、それのことも動かしていかなきゃないだろ

うなと思います。

それで先を見たらやはり外国人の人ですよ、特に縄文に興味持って来るのは。まだまだこれからも日本人が来るとは思うけれども、それ以上にずっと先のことを考えれば、たぶん外国人の方をターゲットにしていて、色んな準備をしていたほうがいいのかなというふうに思います。

岡村会長：そういう点で私が感じるのは、外国人の求めにきちっと答えられるような、たぶん外の人は日本文化の特殊性みたいな、縄文文化で異文化性みたいな、そういうものに魅力を感じてくれているのではないかなと思うのですが、そういうことに応えられるような受け入れ態勢というか、現場づくりというか、そういうのもまだこれからだね。

外国の世界遺産の遺跡を行ってみて一番感じるのは、そこの遺跡の歴史よりはその佇まいだとか、そこにいる人たち、風景とか、そこで食べるものだとか。そんなことにやっぱり異文化を感じて、あぁヨーロッパに来たなとか中国に来たなとか、そういうレベルで縄文を感じてもらえるような。これから工夫してほしいなと。

石川委員:4、5 年前に文化遺産に関して VISIT はちのへの担当の方に話を聞くと、米軍関係の三沢基地経由で結構文化遺産に集って家族連れで来る、そういう傾向があるのではないかということを言われていた。今回種差海岸のほうに行ってみたら、蕪島だとか海岸沿いに、アジアの方が多く見られて、少なくとも文化圏というか空間の嗜好性に課題があるのかと感じました。八戸市に 4、5 年前、コロナ前、外国の方がいたのは事実なので、そういうアジア系の人たちでも種差などを訪れている人が文化遺産・世界遺産は認識していた。回遊性というのですかね。逆に是川縄文館へ来た人が種差海岸・蕪島とかそういうところを回る。そういう見方もできてくると、通過点とならない使い方の八戸が促進される。

博物館とか美術館もあるという枠ですけども、もう少し上の協議会組織というのですかね。ジオパークというのが突破口にあって、うまく連動して回遊性が生まれて、そういう教育プログラムを作れるプロとしての学芸員の方がいらして、そういうところのノウハウと一緒に増えていくといいのかなんていうのを期待しています。

高田委員：是川縄文館懇談会はずっと毎年やっていることなのですか。その中身というのはそういうふうな皆さんとの意見交換というかそういうふうなのか、その辺ちょっとお聞きしたいのですけれども。

事 務 局：懇談会は平成 25 年からずっと毎年 2 月或いは 3 月に、地元の方とボランティアと館の職員で顔を合わせて話をする会です。様々なご要望をいただくこともありますし、ご質問をいただくこともあります。その中で、可能な部分に応えていくというような会になっています。

高田委員:写真では、一つの机に 1 人になっているのだけど、これはコロナの関係でこうなっているのですか。元々は結構それぞれの会の人数で集まってやられているのですか。

事 務 局：元はこの部屋で十何人も集まって、一つのグループから 2 人とか 3 人出てもらっていましたが、かなり絞り込んで今やっているような状況です。

岡村会長：高田さんのところも協議会みたいなものはある？

高田委員：もう新たな形はやるようにしていて。実はそういうふうなのが大事だというか。とにかく施設だけで運営しちゃうのですよね。そうするとやはり外から目に見えているから、見ているからとか、見てないやつは分からないじゃないですか。なんかそういう面でこういうのがすごく大事。うちは最初に整備の計画を作る時に、最初にそれをやったのですよね。町民からどういう遺跡にしたいか、整備したいかお互いに意見交換みたいなのやっていて。実はその時に出たやつが、実は本当は基礎になっていて、ああいう形にはなったのですけども。

（2）その他

事 務 局：説明（中長期目標について）

石川委員：自己点検をもう一度やってみて、これから作る計画で、目標を打つ時に評価指標を作っておくと、よいと思うのですけど。そこら辺の考えとか評価指標みたいな目標、KPI とかそういうのは考えていらっしゃるのでしょうか。

事 務 局：以前点検評価というものを行いまして、その際委員の皆様からのご意見で数値目標も大切ではあるけれども、この間にお客様がいらして、どのように感じていただきたいのか、そういった目標の方がよいのではないかというようなことで、前回点検評価はまとめをいただいたと記憶しております。

是川縄文館は、埋蔵文化財調査というのが一つ大きな車輪になっていますが、事業量が予測できない、数値的な目標が定めづらいという部分もあります。点検評価をすることは重要なことだと思いますので、様々な意見を踏まえながら数値目標についてもまた検討課題の一つとしたいと思います。

石川委員：今この、あくまでも来場者数をどうしたらいいかとかそういうだけの話じゃなくて、自分たちが目標として抱える 100％に対して現在どのくらいまで目標が充足されているのか、そのパーセンテージみたいな、確かそのカテゴリが 5 つか 6 つくらいに分かれていて、その中にやるべき事業内容みたいのがあって、これはもうクリアされているなとか、そういうふうなチェックをしたうえで、例えば今のところ何％とか、ハード的なものに関してはなくさないと 6、7、8 年前はまだ 50％くらいかなとか、そういう意味での進捗状況をくっつけて。目標というか、そういうものをいくつか箇条書きにして、それに対して何か量的なものとか、質的なものが測れるような項目、仕組みというのが作れるといいのかと。

それはなぜかというと、予算とマンパワーが限られているので、事業の優先順位を作るうえで、そういう仕組みを作るということが有効だと思います。正直これだけ色々やられているのはすばらしいと本当いつも思っていて、毎回皆さんにこれだけの限られたスタッフで事業をやって、本当に大変だからあまり無理しないでくださいねと言っているのですけども、そういう意味での世界遺産という 1 つのいわゆるカテゴリの中で、目標となるもののやるべきことの優先順位を考えつつ、それに向かってある意味ミッションという目的、そういうものをテーマに掲げて、それを具体化し

た目標というのを 4 つとか 5 つ位あげて、さらにこの目標を事業化していくという、研究収集保存展示という博物館機能の面から見て、そういうものを整理していくという。そういう基本計画でそれを達成するための 4、5 年の行動計画でグレードダウンですと、何をどうするべきなのとかそういうのが出てくるのかなと思いますね。

伊豆半島ジオパークなんてマスタープランで 4、5 年の行動計画を作ったりしているので、博物館とは違うかもしれませんけど、そういうものを作ると良いと思いました。

吉田委員:確認ですが、今年度に次の 10 年の計画を立てたいということですか。

事 務 局:計画ではなくて何か大きな目標を考えた方がいいのではないかと考えています。

吉田委員:その目標をこの場でも審議することになるということですか。

事 務 局:ご意見をいただきたいと考えております。

岡村会長:今までのことを振り返って内部的に問題を抽出したり、展望したりして。あらあらのものを作って、ここにもそれを追いかけて、さらなる意見をもらってバージョンアップしていくと。そういうことのようです。

吉田委員:そうすると、それはこの会議はそんなに年間数多いわけではないので、今年度のスケジュールとしてはどんなふうな考えをお持ちなのでしょうか。

事 務 局:今年度はあと 1 回で、次は 2 月になりますので、その前に内部で整理した課題等について、皆様にまずお示しをして意見をいただきながら、2 月の会議に向けて目標案等を作って、2 月に目標案について、またご意見いただくような流れを今考えています。

山下委員:今ざっと拝見した 3 つの目的と主な事業と目標とあったのですけども、10 年経って開館前から色々考えられたと思うのですが、目的はこの当時の目的というのは動かせないとは思うのですけども。事業と目標とある中で、この文章をちょっと読むと最後に「埋蔵文化財の重要性を伝えてまいります。」というのが最後になっているのですよね。でもここの 3 つあるのですけど、なかなか一文にすると面倒な感じがするので、箇条書きにしてもいいのかなと。

それで「市民や来館者が八戸の魅力を再発見し、」とあるのですけど、初めて来た人もいっぱいいると思うので、その辺の言葉、あとは縄文文化の発信というのが目的のところにあるので、やっぱり発信するというところで、インバウンドの方と色んな人がこれから見えるということだとすると、そこもちょっと入った方がいいかなと。

誇りや愛着というのは、市民の人は誇りや愛着はあると思うのですけど、外部からみえた方に愛着というのか誇りというか愛着というのはどうかと。文化がすごいだとか自然がいいのだとか、色んな魅力があると思うのですけど、それを感じてもらう、発見してもらう、というような。今後世界遺産で来られる方も多いし、世界への発信ということにも通じていくので、そこのあたりを整理されたらいいかなと思いました。

岡村会長:この頃私は考古学の話あるいは縄文の話を聞きたい人達に対してだけ、今までレクしていたような気がするのですけど、全然関心のない人に何を伝えていくのか、どうわかりやすくエッセンスを伝えていくのか。ここは、これ聞いている立場にたっ

て、どうやったら伝わるのかということを考えないと、ほとんど聞いてくれてないですよ。そういうたまたま、例えばツアーで色々なところに行くのだけれど、その中のひとつに縄文遺跡が入っている。そこで当然縄文の話を聞くのだけれど、こちらとしてはこれだけは伝えていきたいなみたいなことを、できるだけわかりやすく伝える工夫をしないと、むこうは興味を持つとは限らないのですよ、全然。私も中学校に行って、中学校の総合の時間で 3 年間喋りましたけど、何にも伝わらない。それはどうしてかと言ったら、聞く気がないのですよ、全然。そういう意味では新しい人達を掘り起こすとすれば、何を伝えていく、何に関心持ってもらえるのか、そう言ったことを本当真剣に考えてほしいですね。

そこで思うのが、遺跡の解説、文字解説、色んなところで出てきていますけど、この遺跡はなんたらかんたらでと写真を入れながらやっているけど、とっても難しくて、俺は専門だけど読んでいてよくわからない。用語が難しい。やはり人に伝える時に、つっかかる専門用語 1 つぱっと入れておくと、そこで思考が止まるのですよ。そういうことをできるだけその専門用語を使わないで普通にし、普通の語り口で。できたら文字で伝えることはできるだけ控えるというぐらいのことを考えてほしいなという気がします。

遺跡を解説する文章は、文字も小さいし、言葉は難しいし、最低限伝えたいものが伝わってこないといったらいいですかね。とっても難しい。考古学をわかりやすくということを盛んに考古学者達は言っていた時期が 1990 年代にあったのですけど、またそれをみんな忘れている雰囲気ですね、今。ぜひどうやったら伝わるかということを考えて下さい。

高田委員：今回のこの中長期の目標についてということで、今、検討するということは実際どういう経緯でこれをやろうと思ったのですか。当初からもう 10 年経ったらもうこういうふうなのは検討しようという計画があってそれに基づいて今やろうとしているのか、あるいはそのやろうとしたのか、あるいはずっと 10 年間というか、ずっと今やってみて、どうもやっぱりどんどんどんどん変わってきたというような状況が変わってきたのでそろそろこういうのを検討仕直さないと、将来についてすごく影響があるみたいなことでこういうふうなのをやろうとしたのか。

素晴らしいことだとは思うし、実はほとんどこういうのをやってないですよ、今までいろんな施設でも。作るまでは一生懸命やるけども、作った後のやつをある程度やっていって、そこでそれの反省を踏まえて次のステップに進むみたいなことのやつは、本当こういう博物館の中ではほとんど私はないと思いますけど。そういう意味でも素晴らしい良いことだと思うのだけれども、だからそれが参考までにどういう経緯でこれを出したのか、それを教えていただければと。

事 務 局：館の設立前からいるのは私だけになってしまいまして、館のすべてを知っている職員が今後いなくなる可能性もあり、その中で本当に状況が変わっていきました。そういう私なりの危機感もあり、これはみんなでもう一回スタートを振り返って、何のためにここを作ったのか、ここはどういう施設でみんなはどう思っているのか、そう

いうことを振り返ってもう一度リスタートというか、そういうことをしたいなと思って今回私の方から発案したものになります。

史跡の整備についても長い事業になるので意思確認というか、情報共有をして目標をちゃんと検討した方が良いというご意見をいただいます。学芸員の異動があり、発掘調査の方も件数が減らないという状況が続いていて、これまでの 10 年通りにはできそうにない、という危機感があります。それから 10 年経ってリニューアルする必要性もあり、企画展示のテーマ性についても、とにかく縄文で 10 年頑張ってきましたけども、今後のテーマ性についても考えていく必要性があるのではないかと、いろんなことを踏まえて、中長期の目標を厳しいものではなくて、館をよくするための目標を作りたいなという思いで今回発案したものです。

岡村会長：一戸でそういったことを、それまで関係した人たちで、やっている。それに関係して前例があるというのを言っている。吉田委員が言われたけど、原案を作るにあたって、できれば会議で議論するのではなくて、一回機会を設けられるかどうかわからないけど、これを外から見ている私だとか、やはり外からの目でこんなことも検討してくださいみたいなことを、予め聞いていたほうがいいかもしれないなという気はしました。そうすると色々な多様な意見を踏まえて、方向性を自分たちで考えていく。そのほうがいいのではないですか。

石川委員：今回も 10 年というものを立てた上で、まさに基本計画というのですか、人が変わっていても 10 年前の整備基本計画を抜本的に見直して、目標ではなくて目的、ミッションもある意味、再定義をして目標を決めていくという、こういうステップで人が変わっても、10 年前こういうふうな目的・ミッションを掲げて、目標を掲げて自分たちは継続してやってきているのだというマスタープランがないと、何かある意味限られた予算、人員不足が解消されないというのが、すごく心配しているところです。こういうところでも優先順位というのを決めて、場合によってはもうこれは白紙にしてもいいよねとか、そういうところも含めて、ミッション、あと目的、あと目標という、そういう対象に向けてやるべき事業を精査していく。

あとは、逆に新たな世界観としてこういうものは取り込んでいこうとか、こういう議論をしていかないと、たぶん今の僕も含めてですけど、個人的な感想を言ってしまった、これが最終的にどういうふうに反映されて位置付けられているのかというのが、視覚的にも計画を作らないと、目標の位置付けもよくわからないみたいな、そんなことに陥ってしまうのではないかと思うので、ぜひ 11 年前にもう作られている整備計画があると思うので、そのたたき台として新たな基本計画を作るといいのではないかと思うのですけど。

事 務 局：そういった過去ももう一度振り返って今後また検討を進めて事前に、皆さまにいろいろ照会等させていただいて進めていきたいと思います。

高田委員：それで 10 年のやつを振り返ってということなのですけれども、実はずっと私もいろんな形でここの事業に関わらせていただいて、いろいろ説明いただいたりなんかしてきて、いろんなその企画展というか活動も非常に他にはないような、すごく精力

的にやられてきた 10 年じゃないかなというふうに思います。それだけ優秀なスタッフの方もいらっしゃるし、体制的にもここはある程度整っているし、そういう面では八戸市という財政的にやれるところでやれるところは、だけどそれだけじゃなくて、ここの人たちの皆さんもそういう頑張りみたいなやつが、ずっと私はこの 10 年間の中にあると思うのですよ。

ただそれでやっていたら、それはそれとしてやったのだけども、なかなかそれの評価というか、それの意味でというか、例えば八戸市にとって是川縄文館がどういう役割を果たしてきたか。是川縄文館を作ったことによって、八戸がどういうふうな形で変わったかとか。それから青森県全体の中のこういうふうな関係の文化施設の中で、是川縄文館の果たしたのはどういう役割なのかと。こういうふうなのをさっき先生がおっしゃったような数字とか何か出るやつはほとんど難しくて無理な訳で。ただし、だから数字だけじゃなくて、そういうふうなのもちゃんとした記録として、私は残しておくべきだと思うのです。

そういう意味では、そういうふうにずっと関わってきた例えば小久保さんでも良いし、その前の方でも良いのだけども、どなたかがそういうことを、ある面では主観的にならざるを得ないところもあるのだけども、それはそれとして、今までやってきたことをきちっとやはり単年度じゃなくて、単年度のやつはまとめたものがあるのだけども、これまでの 10 年なら 10 年の中できちんとやはり総括しておくのが、大事じゃないかなというふうな気がいたします。

私は自分のとこの自戒を込めて最近すごく感じていますので、そういう意味では本日の委員でもデーリー新聞社さんの方もいらっしゃる。例えばデーリーさんの新聞紙上で、連載でずっとそれをまとめても良いと思うし、そういうふうなのが逆に今度は八戸市民の人たちに、是川縄文館はこういうような形で市の中で位置づけてやってきたのだということを、理解していただく上でも、できると思うのです。多分大変なことだとは思うのだけれども、ぜひどなたかがやはりやっておいた方が良いと思います。それが次の 10 年に繋いで、それが 20 年後には、またどなたかがまたそれをやる。それがどんどん先のほうに繋げていけるような資料になると思いますので、もし可能であればぜひやっていただければと思います。

岡村会長：それに関連して、例えば大内氏館跡の活動 30 年の記録とか、そういうものを外からの目も含めてまとめて振り返っているような冊子ができていたりとか、そういう動きが確実にあるわけです。やはり高田さんのところでも整備の報告書に書いていたり。やはり振り返って、今までの時代時代におけるニーズにどう答えてきたか、それは一緒にサポーターとしてやってくださった人たちの意見なんかも、そこでまとめてもらったりとか。活用とかそういうのは手詰まりがきているのではないかという気がするのだけど、1 回まとめてみてその活用法とかがどういうふうに評価できるのか。

ではこれで、会議は終わらせていただきます。